

平成29年6月7日  
 東部農林振興センター 雲南事務所 農業普及部

標 題	農事組合法人長谷営農組合 10周年記念大会開催される
-----	----------------------------

(ダイジェスト)

平成29年5月20日(土)、道の駅頓原「やまなみ」において、農事組合法人長谷営農組合の設立10周年記念大会が開催されました。組合員参加型の集落営農法人として、自慢の米は美味しまね認証を取得し、集落一農場をめざして多角的な経営をしています。今後は、地域の担い手や組織間の広域連携にも取り組む計画です。

農事組合法人長谷営農組合は、飯南町頓原の長谷地区(城東・城山・城南)の営農組合が母体となり、平成20年に法人化されました。

当初は、長谷集落全戸(34戸)加入で発足しましたが、平成26年から次世代への継承を考慮して1戸複数組合員に取り組み、現在は40名近い組合員数となっています。

和田代表理事から、「組合員参加型の法人として集落一農場を目指した。目標以上の成果を上げて、今日に至っている。今後は、皆で作成した集落ビジョンに沿って取り組んでいく。2020年東京オリパラの食材はGAP必須と聞く。組合もH27年に島根県の美味しまね認証を取得した。生産面では生産コスト削減を図りながら、今後5年・10年、安定経営に向けて取り組もう。」との力強いあいさつがありました。

大会のはじめに「10年のあゆみ」と題して、長谷営農組合の設立から今日までの経過や活動内容について紹介がありました。利用権設定面積は、当初約20haから現在約30haへ増加していること、売り上げは米中心、エコ米面積は約15ha。米はH27年に美味しまね認証を取得し安全な良質米生産を目指している。そのほか、地域内耕畜連携、共同作業、はで干し米、しめ縄用藁の納入、いのしし対策など数多くの取り組みが紹介されるたび、参加の皆さんは頷きながら聞き入っていました。

会の後半、記念講演では「GAPと美味しまね認証」について、島根県農産園芸課食の安全推進室の山本智之室長が、長谷の取組を交えながらGAPについてわかりやすく解説されました。売れる米づくりへの強い思い、

(美味しまね認証の取得により)組合員の皆さんのGAPに対する意識が高いことがうかがえました。

長谷営農組合は頓原集落営農組織連絡協議会の中心的な集落営農法人として、また、地域の広域連携を進めていく牽引役として、今後のますますの活躍が期待されます。



10周年記念大会の様子